

『思いやりの心もち、行動できる生徒を育てる ピア・サポート活動』

藤枝市立藤枝中学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	学級開き 新入生歓迎会&団決め 新入生への歌おう活動指導	<p>①学級のピア・サポート 学級活動や総合的な学習、「話し合い活動」の時間を活用し、望ましい人間関係の構築を目指す。</p> <p>②学年のピア・サポート 学年行事を成功させようという意識の元、学年一体となり、協力し合いながら活動する。 道徳、体育祭、合唱発表会の振り返り用紙に友達の良かったところを記入する。</p> <p>③学校のピア・サポート 団別活動での交流を通じて、異年齢集団と関わりを持つ。 学校で見られたピア・サポート活動を生徒会の放送で紹介する。 各専門委員会の活動にピア・サポートの視点を取り入れる。</p>	<p>【年度初め職員会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校におけるピア・サポートの考え方を全職員で共通理解する。 <p>【活動の成果を確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、学年、学級のそれぞれでピア・サポート活動に関する掲示物を作成し、生徒の目につく場に掲示する。
5月	修学旅行 学年行事（探究、地域探訪）		
6月	結団式		
7月	縦割り交歓合唱		
8月			
9月	交歓合唱 合唱中間発表会 合唱発表会		
10月	団別活動 体育祭		
11月	生徒総会		
12月	小中交流会【探究】		
1月	小学校へのあいさつ運動		
2月	受験応援メッセージ		
3月	3年生を送る会 卒業式		

※隔月で実施される放課後ひらくタイムの活動の中に「ピア・サポート」の視点を取り入れる。

1 本校のピア・サポート

本校では、学校教育目標「自律・探究・協調」を掲げており、「安心・安全な学校づくり」を実現に向けた重点の一つとしてきた。ピア・サポート活動は、ここに位置づけられ、教員も4月から共通理解し、一枚岩となって取り組んでいる。また、行事や生徒会活動では、すべての基盤にピア・サポートの精神があり、活性化や諸問題の解決につながっている。さらに、昨年度と同様に重点目標として「自ら」を掲げ、学校生活全般において仲間とともに主体的に取り組めるような教育活動を意図的に設定し、他者との関わり合いが成長につながられるように努めた。

2 本年度の取組

(1) 授業において

「SAY いっぱい」話し合う活動(学活)〈提言1〉

5月頃、生徒に学級の一員としての自覚や責任感をもたせるために、学活の中での話し合い活動の時間を設定した。自分たちが1年をかけて、どんな学級にしたいかを仲間との対話や全体で意見を共有する活動を通して考えていく。最後には学級で1年間大切にしていきたいキーワードを決め、各学級で教室に掲示をした。新しい仲間との出会いから時間が少し経過したところでこの活動を行うことにより、各学級で大変意義のある活動となった。また、学級の実態を省みて、学習や生活の面だけではなく、他者への関わりに視点をおくことで、1年を通して温かく支え合える人間関係を構築するための手助けとなった。

(2) 特徴的な活動

全校生徒を巻き込む専門委員会の取り組み〈提言6〉

生活委員会では朝のあいさつ運動を行っているが、今年度は、ボランティアを全校から募り委員とともにあいさつ運動を行った。学年関係なく多くの生徒が自主参加し、コミュニケーションをとりながら活動を行うことで、過ごしやすい学校生活の基盤をつくることへとつながった。また、委員長が昼の放送であいさつ運動に自主参加してくれた生徒を呼名することで、参加した生徒の価値づけをすることができた。

歌おう委員会では、各団で歌を歌い合う交歓合唱を行った。合唱発表会前に実行し、それぞれの良い点を伝えたりアドバイスをしあったりすることで、学年を超えた学び合いとなり、非常に有意義な活動となった。

保健委員会では、「感謝の気持ちを伝えよう」活動を行った。感謝を伝えたい人にメッセージカードを書き、それを掲示することで、温かな雰囲気づくりに貢献した。

各専門委員会がピア・サポートの視点を持ち活動を考えることで、互いに認め合い、助け合う雰囲気の醸成につながった。

他にも、「放課後ひらくタイム」という自主参加の学習会を行っている。自学・共学のスペースを作ったり、縦割り集団ごとに集まったりすることで、生徒同士が教え合う姿が見られた。

3 本年度の成果と来年度に向けて

本年度は、各専門委員会がピア・サポートの視点を持ち、全校生徒が参加し互いの良さを認め合える活動を多く行うことができた。また、合唱発表会や体育祭、学年行事などの終了時には、ピア・サポートの視点で振り返る活動も行うことで、自分が周りの人に支えられているということに気づき、自分も相手に還元しようという気持ちの育成につながることができた。一方で、自分本位な考え方をしてしまう生徒や、うまく人と関われないという困り感を抱えている生徒も一定数いるという現状がある。来年度はソーシャルスキルトレーニングを様々な場面で教育活動に組み込んでいき、自ら他者と温かく関われるような環境をつくっていきたい。